

先端ニーズの未来を見据え  
最新の情報でグローバルな  
パートナーシップを構築します

## 2011年3月期 第2四半期 決算説明資料



株式会社トーメンデバイス

2010年10月28日

本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

1. 第2四半期 連結決算概要

2. 通期業績見通し

## 上期(第2四半期累計)決算のポイント

### 過去最高の業績を記録(2四半期ベース)

売上高	101,511百万円(前年同期比 51.5%増)
経常利益	3,131百万円(前年同期比106.7%増)
当期純利益	1,835百万円(前年同期比111.3%増)

1. 第2四半期終盤にDRAM及び液晶パネル価格が下落傾向となるも、総じて上昇基調を辿る
2. 液晶テレビ用パネル販売が本格化
3. 液晶テレビ用LEDバックライトが好調
4. 物流、在庫調整機能を十分に活かし、物量の確保と安定供給を行う

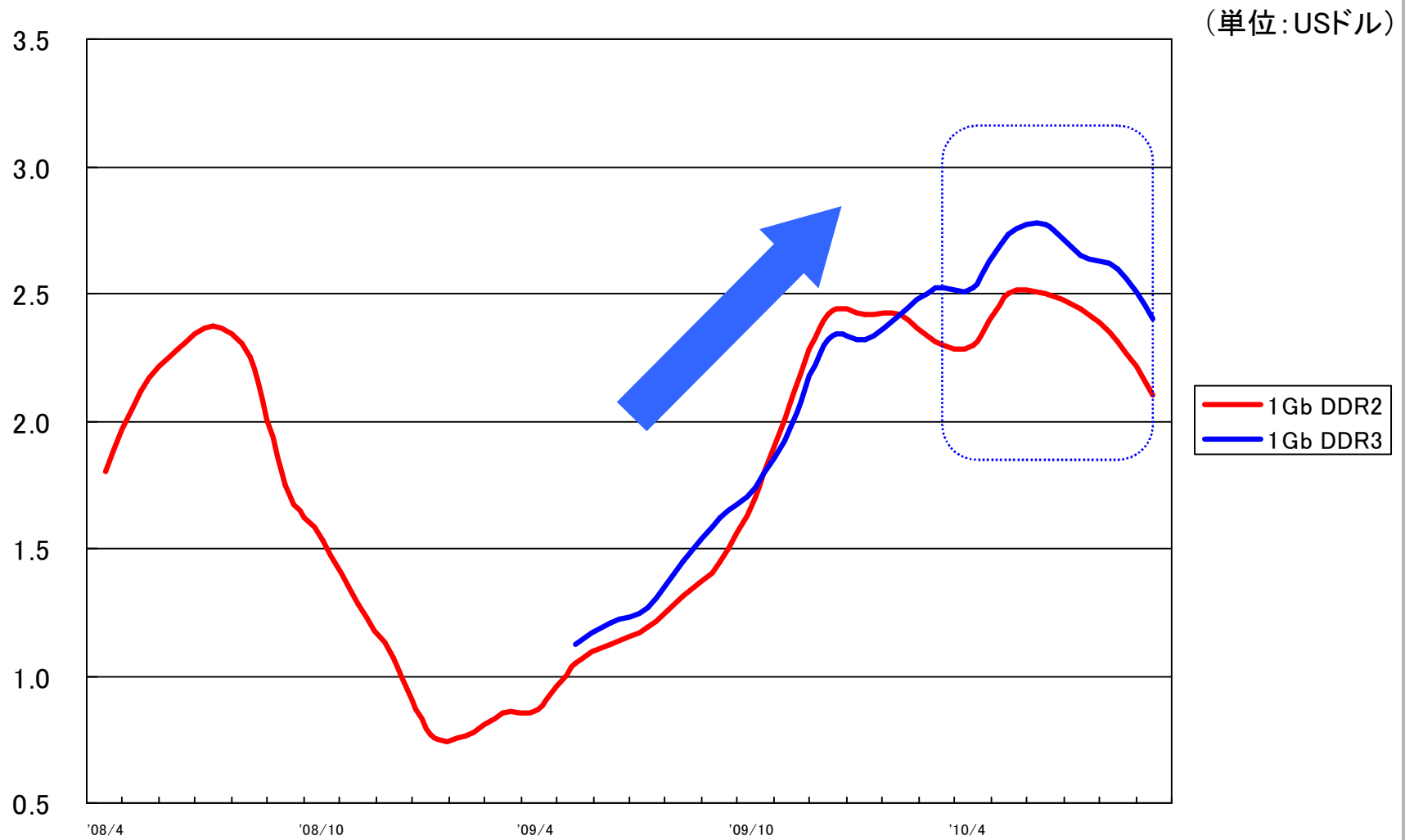
# 第2四半期決算概要

(単位:百万円)	2011年3月期 第2四半期		2010年3月期 第2四半期	
	実績	前年同期比 増減率(%)	実績	前年同期比 増減率(%)
売上高	101,511	51.5	67,012	▲19.7
売上総利益	3,606	58.2	2,279	▲12.9
販管費	940	8.7	865	▲13.8
営業利益	2,666	88.5	1,414	▲12.3
経常利益	3,131	106.7	1,515	1.9
当期純利益	1,835	111.3	868	1.1
1株当たり当期純利益(円)	269.92	—	127.72	—
総資産	58,538	—	43,333	—
純資産	18,611	—	16,214	—
自己資本比率(%)	31.8	—	37.4	—
1株当たり純資産(円)	2,736.20	—	2,383.85	—

・2011年3月期 第2四半期の1株当たり当期純利益及び純資産は同期中平均発行済株式数6,801,907株に基づき算出  
 ・2010年3月期 第2四半期の1株当たり当期純利益及び純資産は同期中平均発行済株式数6,801,920株に基づき算出

# 当第2四半期環境 DRAM価格推移（'08年4月～'10年9月）

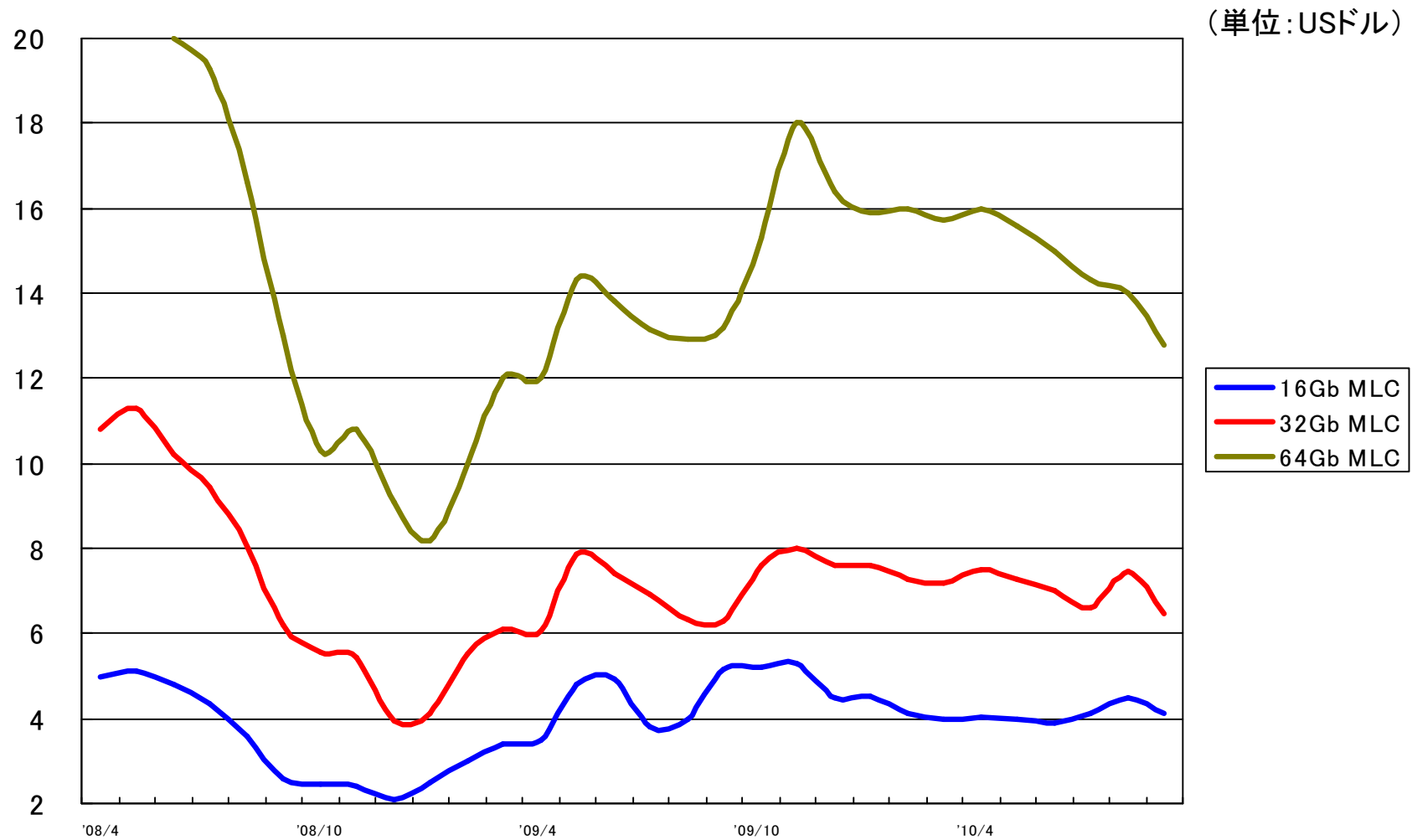
総じて上昇基調も2010年6月をピークに軟調傾向へ



※各種データに基づき当社で作成

# 当第2四半期環境 NAND FLASH価格推移

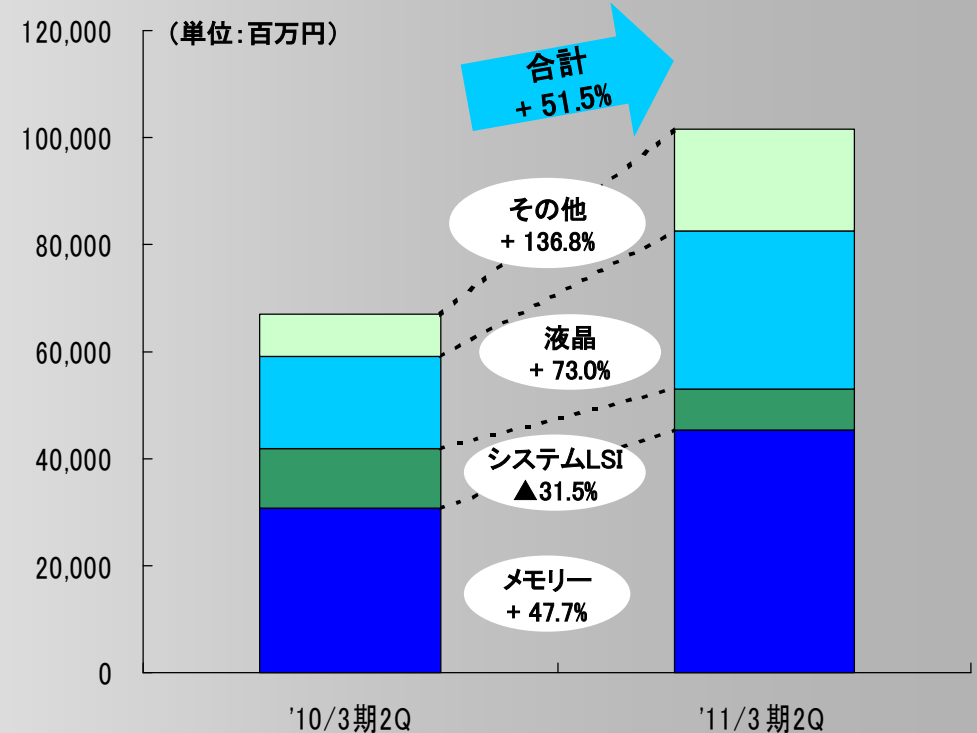
今年度は概ね価格は安定も、第2四半期終盤下落傾向に



※各種データに基づき当社で作成

# 商品別 売上高推移

(単位：百万円)	2011年3月期 第2四半期	2010年3月期 第2四半期	増減率 (%)
メモリー	45,338	30,687	47.7
システムLSI	7,707	11,245	▲31.5
液晶	29,642	17,132	73.0
その他	18,822	7,947	136.8
合計	101,511	67,012	51.5



## ■ メモリー ■

1. Windows7買換え需要によりDRAM需要が大幅増
2. 携帯電話、デジカメ需要の回復によりMCPが好調
3. 海外向けFLASHが堅調に伸びる

## ■ システムLSI ■

1. 液晶テレビ向けにもDDIを販売開始、売上増
2. コンパクト型デジタルカメラを中心に競争が激化しSOCの売上は大幅減

## ■ 液晶 ■

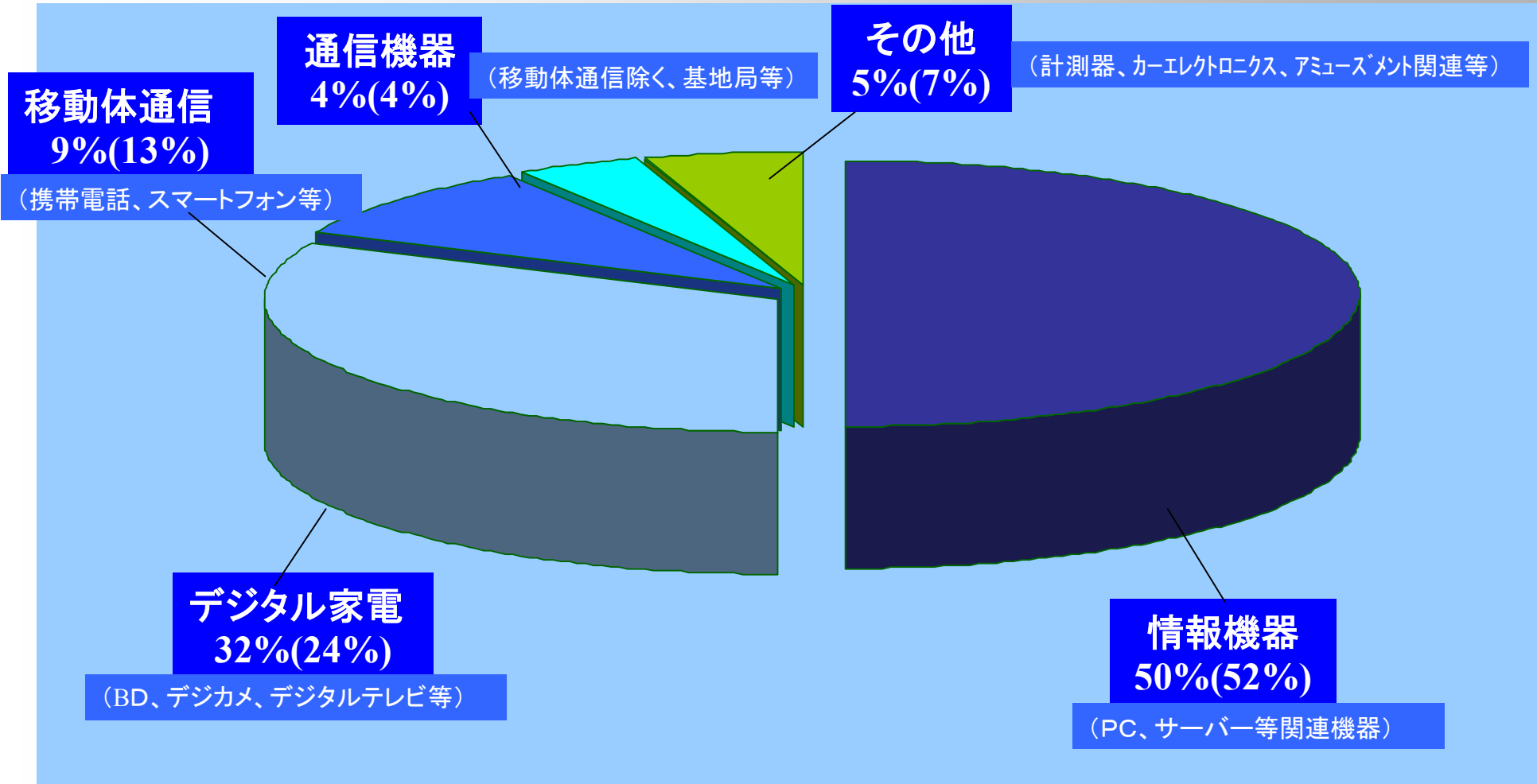
1. テレビ用液晶パネルが大幅増
2. DRAM同様、PC用液晶パネルの需要も伸長
3. モニター、サイネージ向け需要が回復

## ■ その他 ■

1. 液晶テレビバックライト用LEDが大幅増
2. テレビ録画用外付けHDDの需要が急増
3. PC用にHDD、ODDを供給開始

# 当社用途別売上高の構成推移

2011年3月期第2四半期累計 売上高1,015億円



( )内は前年度同期の構成比率



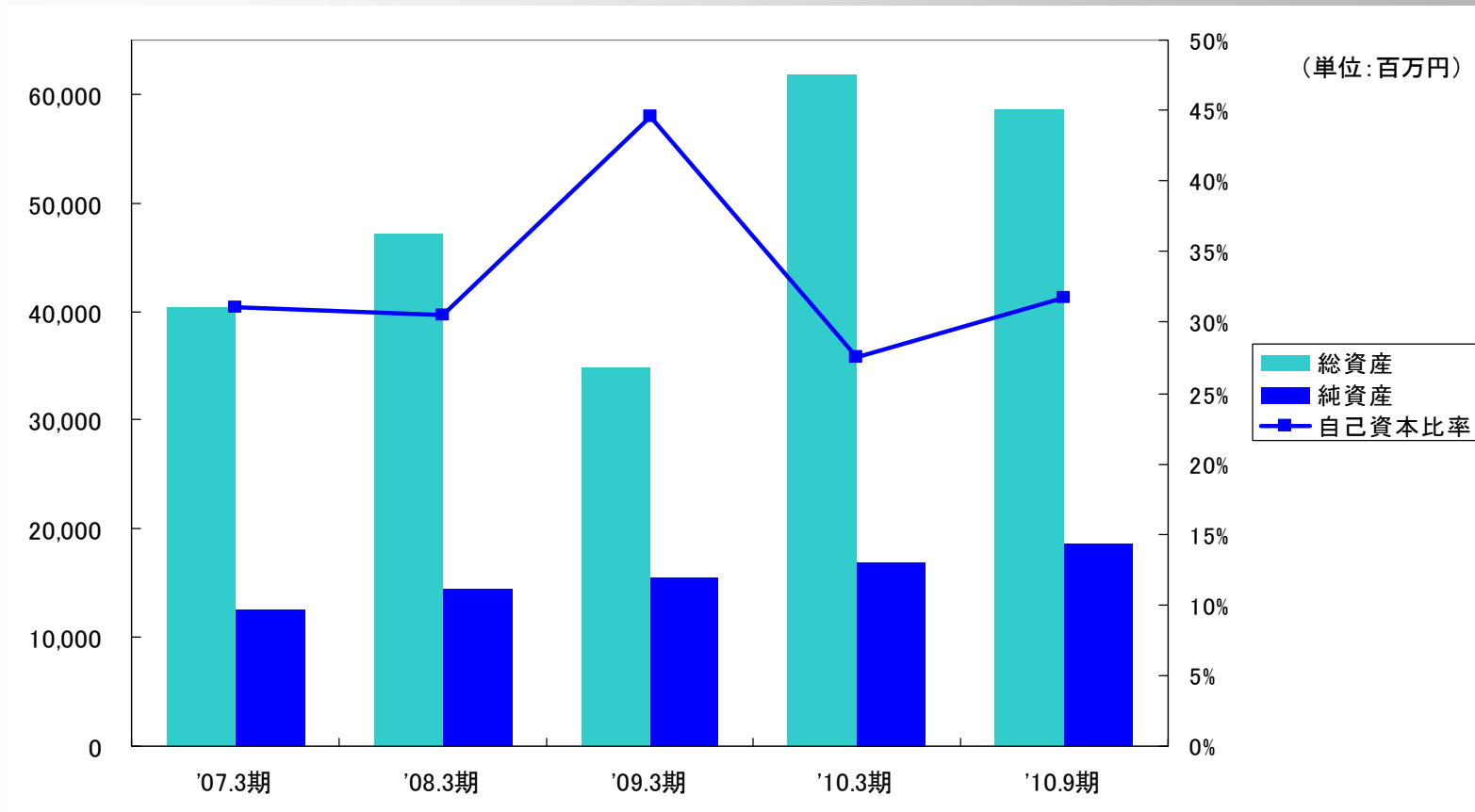
# 連結貸借対照表(概要)

(単位：百万円、%)		2011年3月期 第2四半期		2010年3月期 第2四半期		2010年3月期 通期	
		金額	比率	金額	比率	金額	比率
資産の部	流動資産合計	57,747	98.6	42,808	98.8	60,961	98.8
	固定資産合計	791	1.4	524	1.2	722	1.2
	資産合計	58,538	100.0	43,333	100.0	61,684	100.0
負債・純資産の部	流動負債合計	39,674	(67.8)	26,926	(62.1)	44,480	(72.1)
	固定負債合計	253	(0.4)	192	(0.5)	197	(0.3)
	負債合計	39,927	68.2	27,118	62.6	44,678	72.4
	純資産合計	18,611	31.8	16,214	37.4	17,006	27.6
	負債純資産合計	58,538	100.0	43,333	100.0	61,684	100.0

# 連結キャッシュ・フロー計算書(概要)

(単位：百万円)	2011年3月期 第2四半期	2010年3月期 第2四半期	増減額	コメント
I. 営業キャッシュ・フロー	▲1,087	▲2,673	1,586	未払金の減少
II. 投資キャッシュ・フロー	▲82	6	▲89	次期基幹システム導入費用
III. 財務キャッシュ・フロー	989	3,108	▲2,119	運転資金の借入金増加
IV. 換算差額	▲23	2	▲25	
V. 現金等の増減額	▲203	444	▲647	
VI. 現金等の期首残高	881	811	69	
VII. 現金等の期末残高	677	1,256	▲578	

# 総資産、純資産、自己資本比率の推移(連結)



(単位:百万円)	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2010年9月期
総 資 産	40,428	47,188	34,754	61,684	<b>58,538</b>
純 資 産	12,585	14,435	15,500	17,006	<b>18,611</b>
自己資本比率	31.1%	30.6%	44.6%	27.6%	<b>31.8%</b>

1. 第2四半期 連結決算概要
2. 通期業績見通し

## プラス要因

1. 国内のスマートフォン市場が拡大
2. サムスン積極的設備投資の継続  
⇒2010年の半導体の設備投資は約11兆ウォン  
(約8,370億円)  
⇒内、メモリーは約9兆ウォン(約6,850億円)
3. サムスン30ナノ台DRAM製品の量産を開始  
⇒生産性約6割向上

## 懸念事項

1. 欧米を中心に消費の落ち込み。中国の消費にも陰り
2. 法人向けPC買換えが期待されるも、Windows7需要の一巡化
3. 在庫増とセットメーカーの生産調整による需要減により、DRAM及び液晶パネル価格が下落
4. 円高・ドル安基調が加速  
( '09年4月1日～'10年3月31日平均レート: 1 \$ = 92.85円  
'10年4月1日～'10年9月30日平均レート: 1 \$ = 88.78円)

通期見通しを上方修正。通期でも過去最高業績を目指す。

売上高	1,770億円(前期比27.4%増)
経常利益	46億円(前期比58.0%増)
当期純利益	27億円(前期比56.6%増)

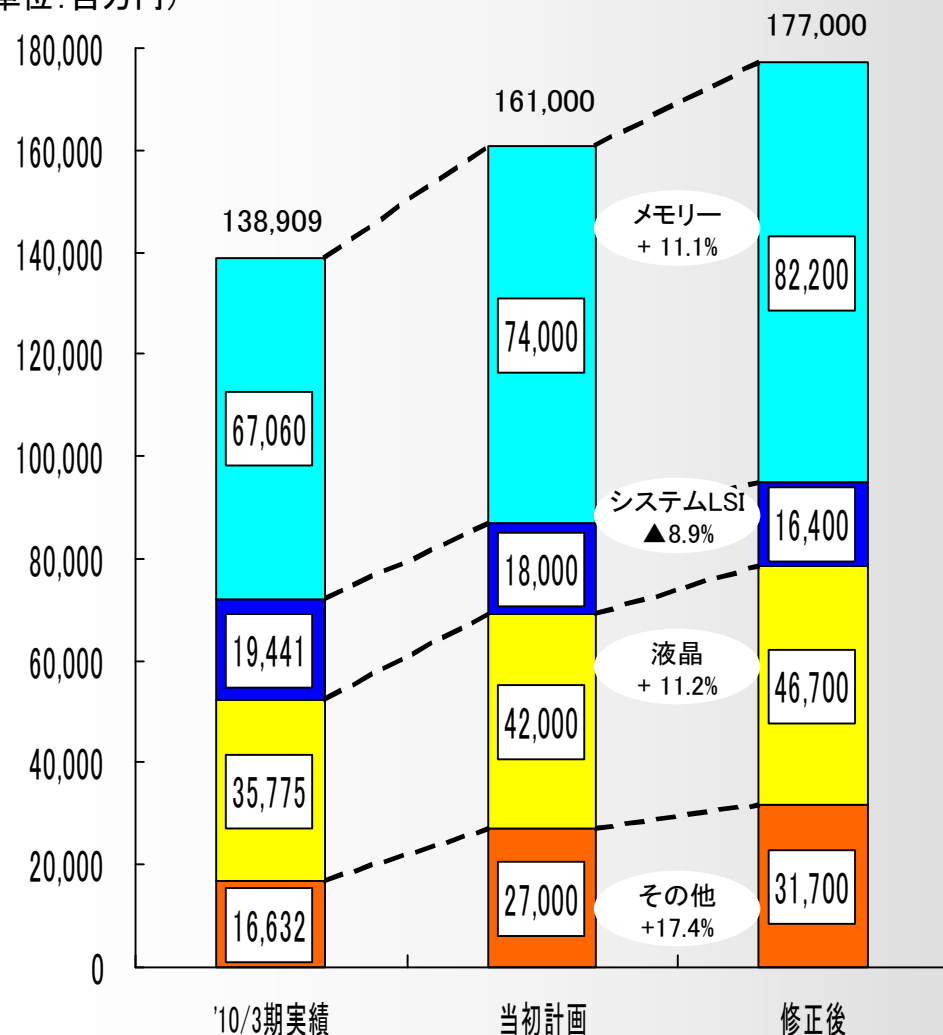
1. 更なる低消費電力を実現するGreen Memoryをサーバー向けに本格供給
2. グローバル化に向け、物流統括部を新設(10月1日付)
3. 2011年4月稼働の次期基幹システムの立ち上げに向けた準備

# 通期業績見通し(連結) ~ 上方修正へ

(単位：百万円、%)	2011年3月期 通 期 修正後計画	当 初 計画比 増減率	前 年 同期比 増減率	2011年3月期 通 期 当 初 計 画	前 年 同期比 増減率	2010年3月期 通 期 実績
売 上 高	177,000	9.9	27.4	161,000	15.9	138,909
営 業 利 益	4,100	40.4	48.5	2,920	5.8	2,760
経 常 利 益	4,600	50.3	58.0	3,060	5.1	2,910
当 期 純 利 益	2,700	49.2	56.6	1,810	5.0	1,724
1 株 当 たり 当期純利益 (円)	396.95	—	—	266.10	—	253.46
1 株 当 たり 配当金 (円)	50.0	—	—	35.0	—	35.0

## 通期業績見通し 当初計画と修正後計画との比較

(単位:百万円)



### ■メモリー■

1. Windows7によるPC向けDRAM需要が伸び、同価格が高騰
2. エコポイントの恩恵を受け、デジタル家電向けが想定以上に増加
3. 下期は法人向けPC買い替え需要に期待

### ■システムLSI■

1. コンパクトデジカメ向けSOCが不振

### ■液晶■

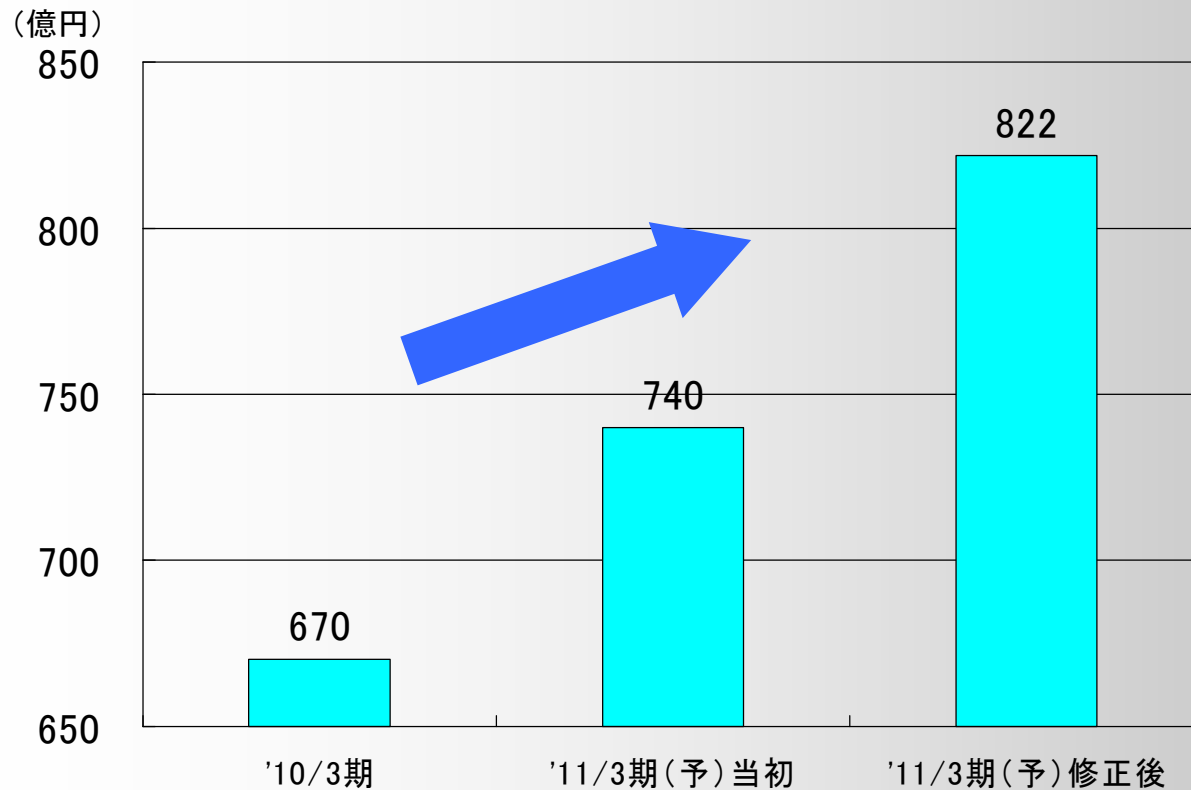
1. テレビ用液晶パネルが好調
2. DRAM同様、Windows7効果によりPC向け液晶パネル売上が大幅増
3. デジタルサイネージ、モニター向け液晶パネルが想像以上に回復

### ■その他■

1. LEDテレビの普及により売上が伸長
2. 外付けHDDの用途が拡がり(テレビ録画用、ゲーム機用へ)販売増



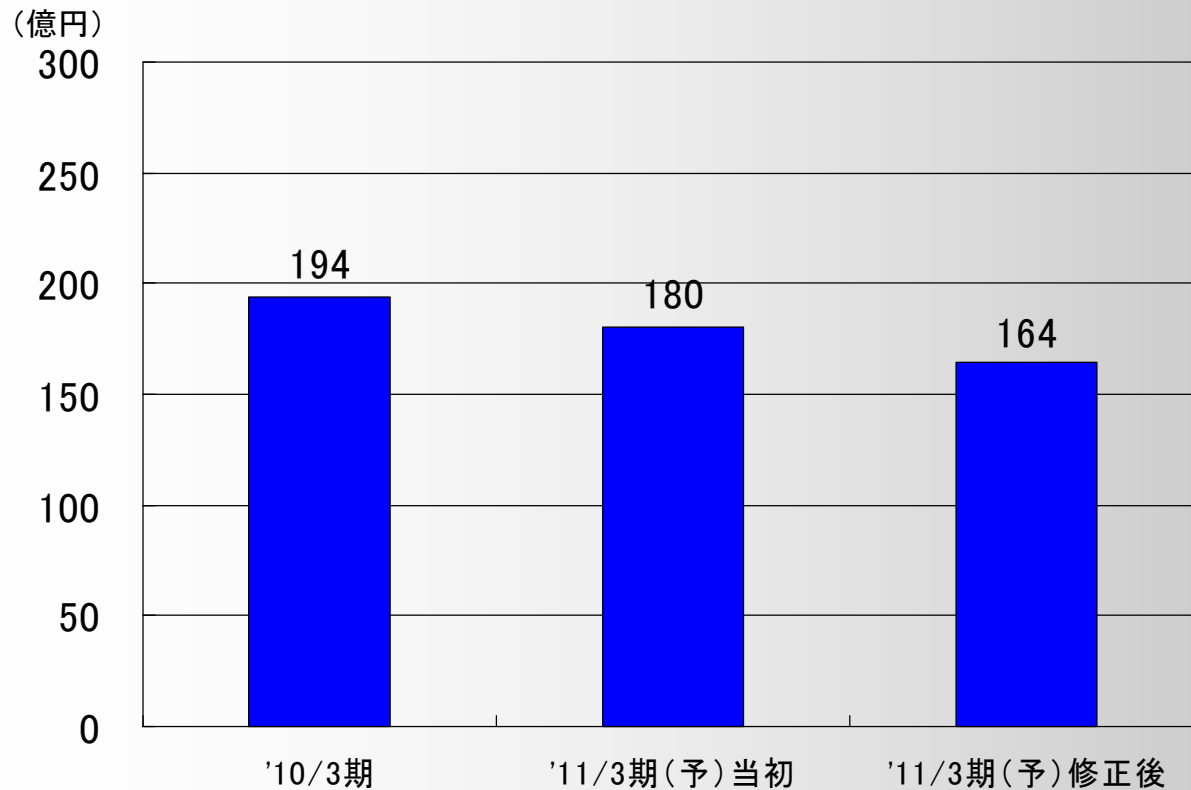
# 下期及び今後の展開 <メモリ分野>



## 【下期以降の取組み】

- 今後普及が予想されるスマートフォンに向けたモバイルDRAM、NAND FLASH及びMCPを拡販
- 法人のPC買換え需要に応えるべく、適切な物量の確保
- サーバー向けGreen Memory(1.35V)の供給開始

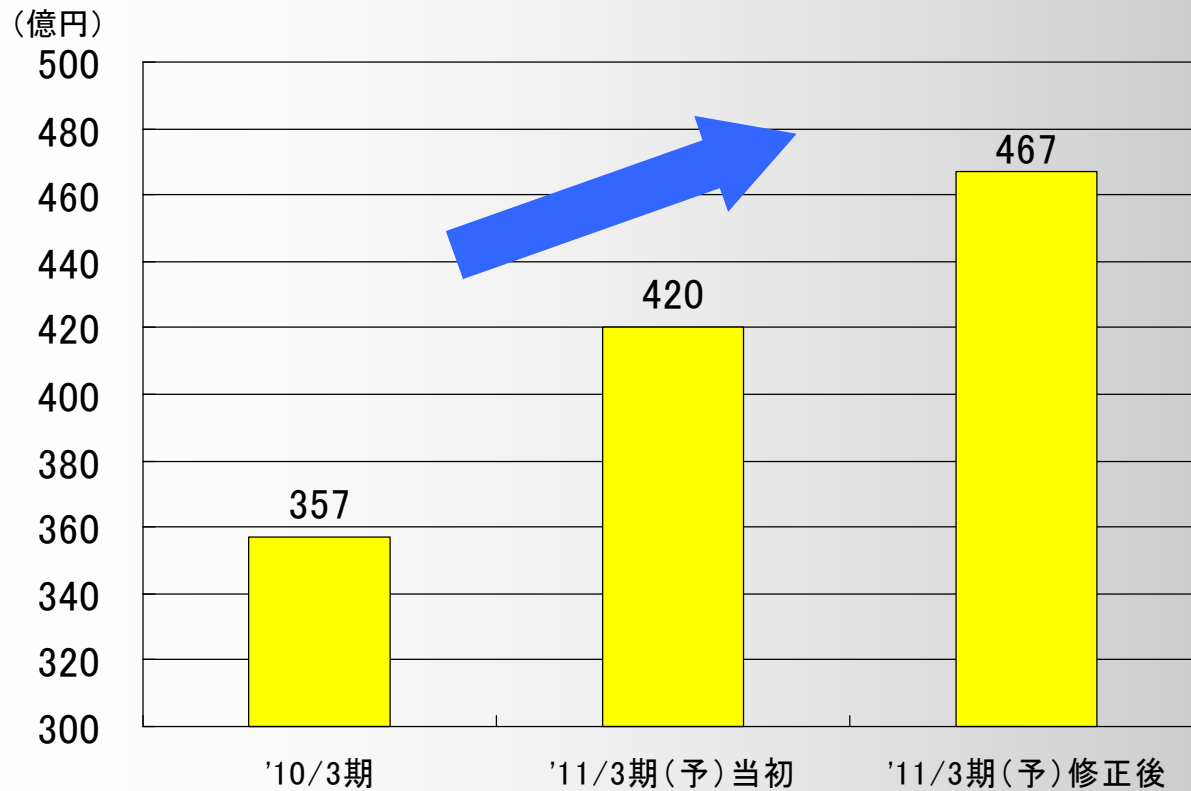
## 下期及び今後の展開 <システムLSI分野>



### 【下期以降の取組み】

- DDIを中小型液晶向けから、大型液晶(テレビ用)向けへと拡販
- 既存のアプリケーションについては更なるシェアアップを計る(DDI)
- ファウンドリービジネスの立ち上げを実施

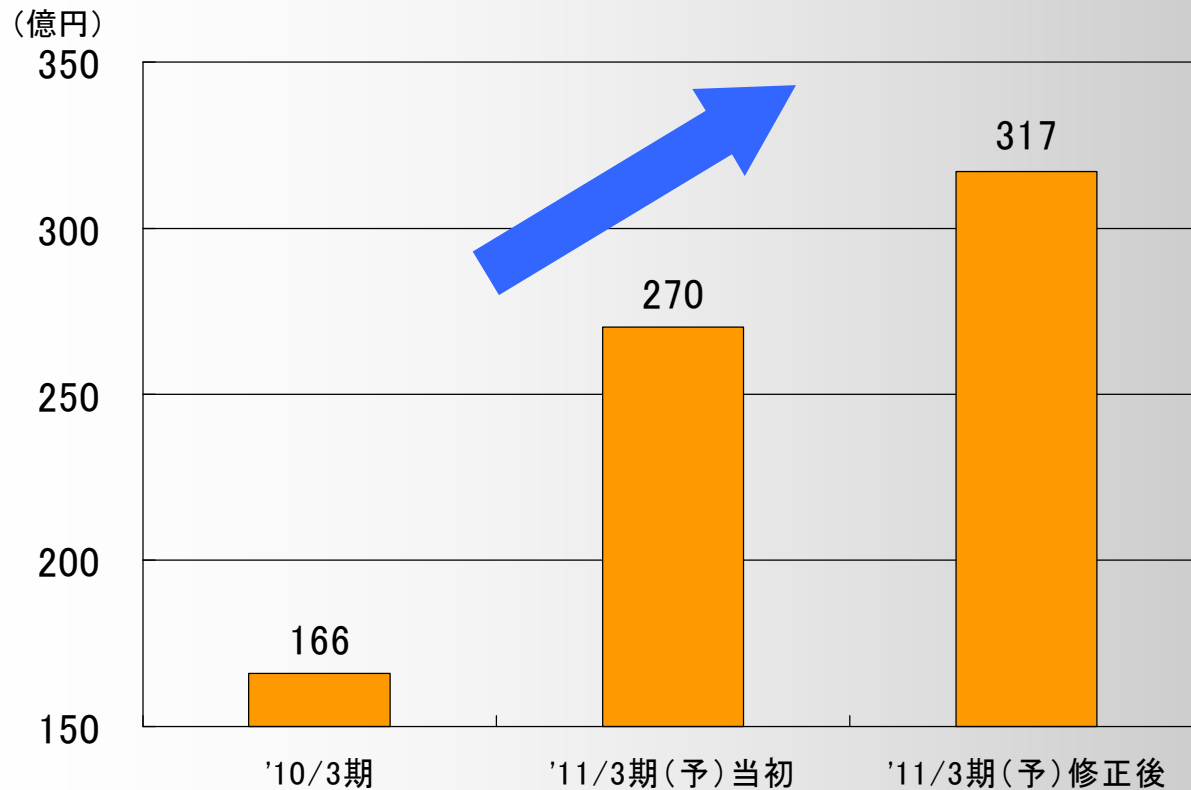
# 下期及び今後の展開 <液晶パネル分野>



## 【下期以降の取組み】

- 欧米液晶テレビ市場の冷え込みが鮮明化の中、シェアの維持・拡大
- 法人のPC買換え需要に備えるべく、適切な物量を確保

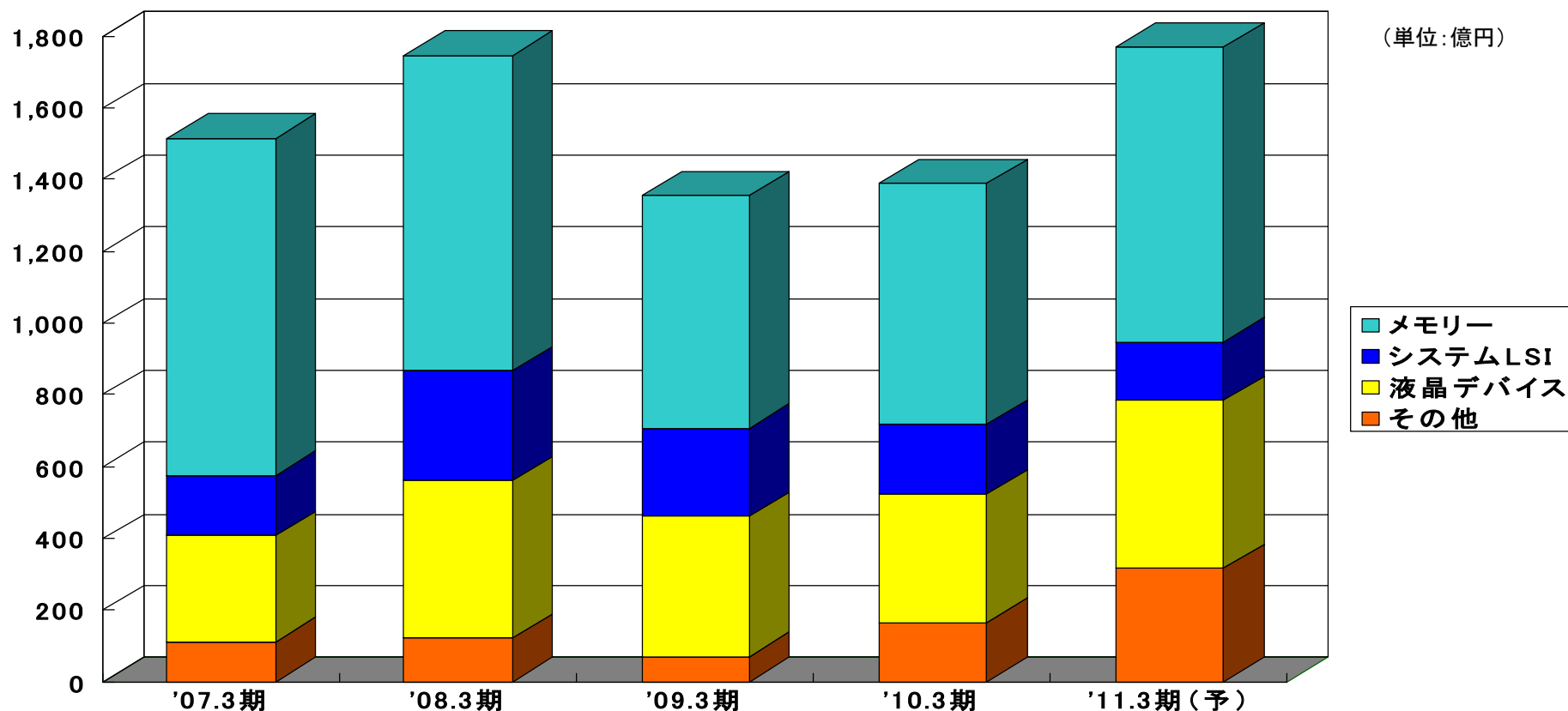
## 下期及び今後の展開 <LED、HDD、ODD等その他>



### 【下期以降の取組み】

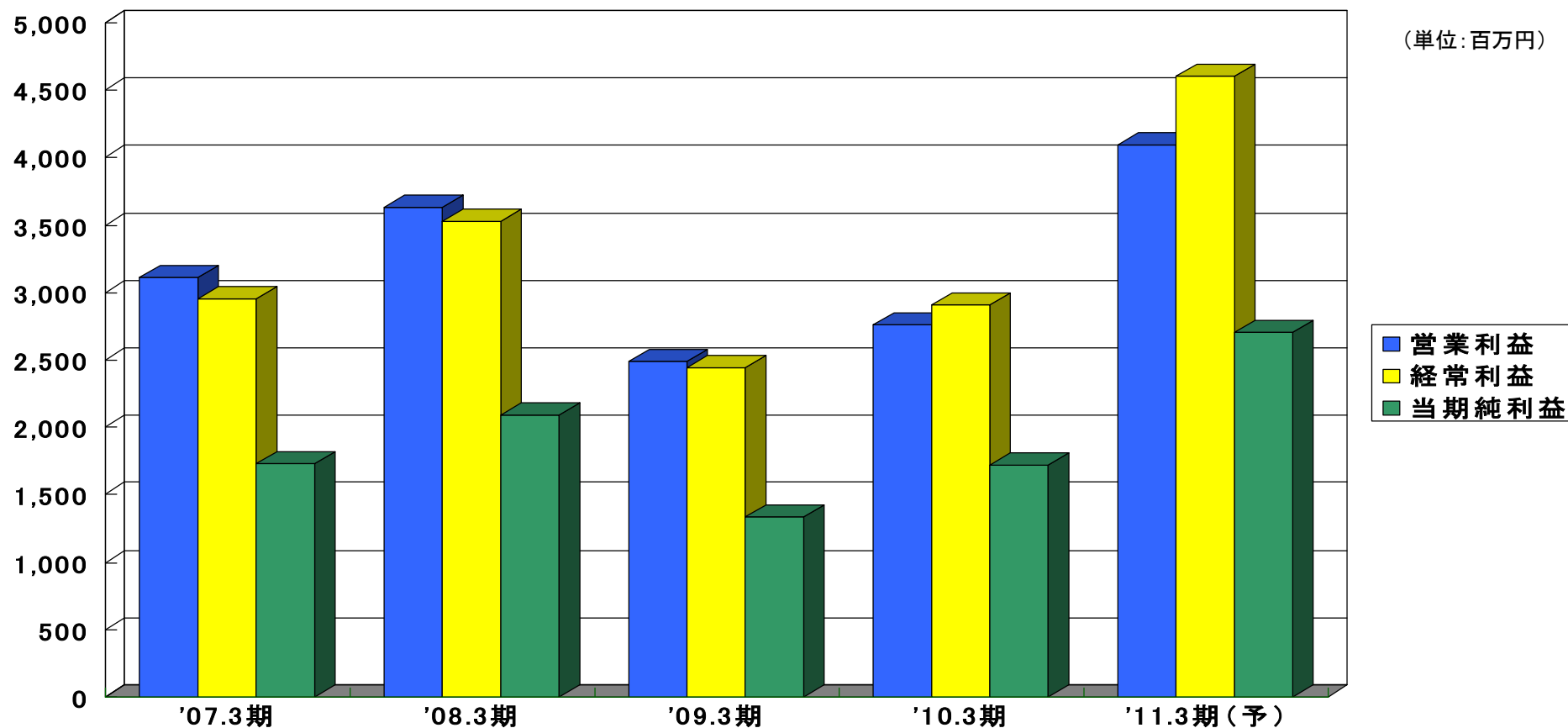
- Blu-ray録画機への採用に向けたアプローチ(HDD)
- PC内蔵採用に向けたデザイン・インの開始(HDD、ODD)
- 液晶テレビ用バックライト以外のアプリケーションの開拓(LED)
- 中長期的には、デジタル家電以外への採用に向けた拡販(LED)

# 品目別売上高の推移



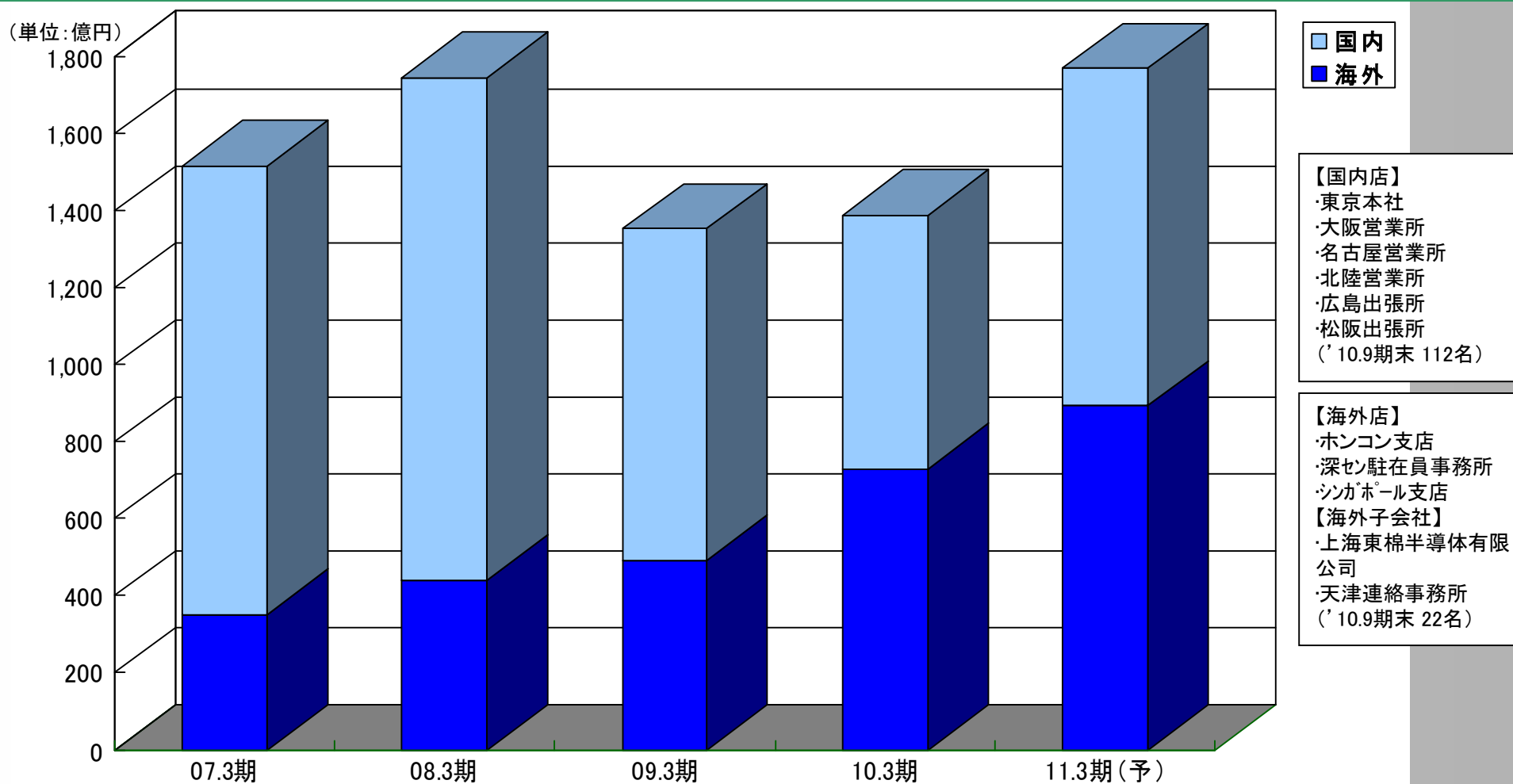
(単位: 百万円、%)	2007年3月期		2008年3月期		2009年3月期		2010年3月期		2011年3月期(予)	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
メモリー	(93,911)	(62.0)	(87,764)	(50.2)	(64,793)	(47.8)	(67,060)	(48.3)	(82,200)	(46.4)
システムLSI	(16,748)	(11.0)	(30,705)	(17.6)	(24,480)	(18.1)	(19,441)	(14.0)	(16,400)	(9.3)
半 導 体	110,660	73.0	118,470	67.8	89,274	65.9	86,502	62.3	98,600	55.7
液 晶 デ バ イ ス	29,647	19.6	43,944	25.2	39,163	28.9	35,775	25.7	46,700	26.4
そ の 他	11,274	7.4	12,200	7.0	6,996	5.2	16,632	12.0	31,700	17.9
合 計	151,583	100.0	174,614	100.0	135,434	100.0	138,909	100.0	177,000	100.0

# 営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(単位: 百万円)	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期 (予)
営業利益	3,108	3,636	2,491	2,760	4,100
経常利益	2,954	3,531	2,447	2,910	4,600
当期純利益	1,730	2,098	1,330	1,724	2,700

# 海外売上高の推移



(単位: 百万円、%)	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期(予)
売上高	151,583	174,614	135,434	138,909	177,000
内、海外売上高	35,197	44,213	49,399	73,043	89,385
海外売上高比率	23.2	25.3	36.5	52.6	50.5

ご清聴ありがとうございました



トーマンデバイスはサムスン電子と共に  
最適なトータルソリューションを目指します